

中国語教学雑記 (1) ～「速読」の授業～

鈴木 誠

授業に出席する学生は3つのタイプに分類できる。一つは予習をして熱心に授業を受ける2割、所謂「やる気のある学生」である。二つめは、欠席や遅刻が多く、予習もせず試験の結果も芳しくない2割の「やる気のない学生」だ。残りの6割が平均的な「ふつうの学生」であり、彼らは教師の顔色をうかがいながら単位のために最小限の努力はする。上の2割にはさまざまな授業の工夫が可能かつ有効であるのに対し、下の2割に有用な方法を見つけるのはかなり難しい。この状況は中国語専攻の学科においても同様である。速読の授業のねらいは、6割の「ふつうの学生」にしっかり予習をさせ、毎回きちんと授業に出席させることにある。

麗澤大学中国語学科の2年生中国語演習の授業に速読のトレーニングを導入した。速読とは、あるまとまった文章を、スムーズかつリズムカルに一定の時間内で「速く読む」練習方法のことであり、通訳者養成講座などでよく行われるトレーニング方法の一つである¹⁾。具体的な例を挙げる。

【教材】2007/07/02CCTV《新闻联播》

去年7月1号，青藏铁路实现全线通车。一年来，高原列车穿梭在世界屋脊，极大地改变了西藏的社会经济发展面貌，以青藏铁路为核心的新经济带初步形成。

63文字のニュースをアナウンサーは13秒で読む。授業ではこのニュース原稿をアナウンサーと同じ速さで読むよう指示する。学生は配布した音声教材を聴き授業外で練習し、その成果を授業で検証する。授業の検証では、設定した秒数以内に課題文を読み終えれば合格とし、10点をあたえる。合否の基準は速度のみとする。教材は10種類を用意し、教材をすべてクリアすれば平常点として100点をあたえる。

速読の授業において、教師は一方通行の講義を避け黒子役に徹し、主役を学生に譲る。教師が授業で行うのは、合否の判定、短めのコメント

および全体の時間管理が中心となり、課題文の解釈はできるだけ簡潔にする。逆に学生は忙しい。学生の指名、ストップウォッチによる秒数の測定、合否の記入などが学生の担当となる。速読検証の際、学生のために教壇近くに「特設ステージ」を用意する。「緊張して実力が発揮できない」と学生からは評判が悪いが、「緊張するのは練習不足、オリンピックの大舞台でよく世界記録が出るでしょ、むしろ緊張した方がいい」とかわす。教師の「講義」は悪気なく無視する学生も仲間の発表にはまじめに耳を傾ける。

速読の設定時間は1分間300文字を基本とし、クラスのレベルにより課題文の長さを調整する。合否の判定基準は速度のみとするので、速度の設定は大切になる。授業外での練習量を増やすことがねらいなので、設定時間は可能な限り厳しめにした方がよい。合否の基準を明確にすることで学生のモチベーションを高める。練習してクリアできると思えば学生は練習する。

学生の出席率は向上したように思う。当たり前だ。授業に出なければ得点にならない。予習をして出席するようになる。授業に出ても検証にパスしなければ点数は加算されない。学期も半ばを過ぎ、授業で教室に入ると学生たちが音読する声が聞こえる。多くの学生が授業直前の短い時間を使って練習をしている。このような光景を目にしたのは教師生活20年で、初めてだ。

初級段階の学習を終えた中国語学科の2年生が中国語を声に出して読む機会は意外と少ない。とくに日本人教師の授業では講読中心の授業が多くなる。講読で授業の効果を上げるには学生の予習が前提となる。また輪読形式の授業では時間内に指名できる学生の数に限りがあり、意識の高い学生でないと授業に対して能動的な態度で臨めない。また解釈が中心となるので発音を直す時間もない。では中国人教師のコミュニケーション中心の授業はどうか？ 授業では短い会話の練習が多く、長い中国語を話す機会はまずない。中国語の知識を習得しても、それを表現する道具が錆びていては役に立たない。中国語を話す口の筋肉を鍛える必要がある。速読のトレーニングが必要な所以である。速読のトレーニン

グによって中国語を話すための「体力」を養うのである。

さらに、速読のトレーニングには別のねらいがある。トレーニングによって中国語の音声と意味を直接結びつけることだ。中国語を速く読むことで、ピンインを読む意識から離れ、より自然な中国語のリズムを習得する。こちらの目標はまだ十分に達成されていない。今後の課題としたい。

【注】

- 1) 中国語の「速読」については『通訳メソッドを応用した シヤドウイングと速読で学ぶ中国語通訳会話』4～5頁に詳しい解説がある。また、速読授業の方法および実践については鈴木誠 2007、2008 を参照されたい。

【参考文献】

『通訳メソッドを応用した シヤドウイングと速読で学ぶ中国語通訳会話』

長谷川正時・長谷川曜子著、スリーエーネットワーク 2007 年

鈴木誠 2007 「中国語『速読』の試み」、『麗澤大学紀要』第 85 卷

鈴木誠 2008 「中国語『速読』の実践」、『中国研究』第 16 号、

麗澤大学中国研究会